

6 大芝原平地林の植物

(1) はじめに

平地にこれほど大規模な樹林をもつ所は珍しいと思うが、ここにもまたいろいろな歴史をもち、将来性を秘めた場所ではないかと考える。よってこの地域の植物相を調査し、今後この平地林をどのように活用していくか考える上に参考になればと思う。

(2) 大芝原平地林の歩みのあらまし

大芝原は北に大泉川、南に大清水川があり、その両者によって生じた扇状地である。広さはゴルフ場を除いて約100haで、西から東への傾斜角度は5~6度で、大変になだらかなものである。かつては雑木林であったが、開畑が進み明治10年代には家畜の飼料や田畑の肥料を目的とした「まぐさ場」として利用していた。

植—58

明治28年に南箕輪村尋常小学校長に赴任した福沢桃十先生が、学校が災害にあったときの基本財産の必要性を感じ、植樹することを考えた。初めは村民は反対であったが、熱心な説得で理解が得られ、10ha学校林を造ることを許可された。桃十先生は児童と職員に呼びかけ、10haに約一万本のどんぐり（コナラの木）を植えた。



昭和20年代の南箕輪中学校の植樹作業

明治33年 9760本のアカマツ植樹を完了。採草地への植樹を村民は反対。

35年 14984本のアカマツ、9976本のカラマツを植樹

44年 植樹面積百haに達する 大正3年 大芝原村有統一決議

大正7年 村会が植林地保護規定を決議、樹木の伐採一切禁止となる。

昭和19年 戦時中農産資源開発のため一部開墾、間伐伐採売却

21年 食料増産のため41ha開墾、一部を除いた殆どの平地林が耕地化

24年 南箕輪中学校により、カラマツ1万本、ヒノキ200本植樹

このころまでに、10万本のヒノキの苗が植えられる

52年 中学校創立30年を記念し、ハンノキ・ヒノキ・アカマツ・ドイツトウヒを植樹

53年 都市公園に指定、面積51,6ha 諸施設建設

平成 9年 大芝高原に温泉湧出・大芝開発等審議会設置 (以下省略)

大芝昔語り 征矢哲雄先生（国立信州高遠少年自然の家講師）の談話

① 前半の大芝原の歴史についての談話は、重複するため省略

② 私が教師として昭和28年に赴任した西箕輪中では、大芝で半日くらい理科の授業をしました。リス、キツネやムササビがいて、それは豊かな自然。昭和34年に南箕輪に赴任してから、毎年生徒たちと大芝に出向いて植林を続けました。（中略）自然は放っておけば、自然ではない。今、大芝の森には小型のほ乳類が少なく、昆虫類も少ない。私たちは、体から伝わる歴史を大切に、豊かな森にしていく責務があると思います。

上記の内容は、毎日新聞（2003年9月3日）の記事で「スキオねっと」セミナー「大芝の森の昔、そして、これから」のなかに記載されている。

〔参考文献〕『南箕輪村誌』・『上伊那誌人物編』『伊那谷友の会』報告書

「伊那毎日新聞：いなまいニューススタジオ」保存版

次に、大芝・南原地区のなかから、特徴のある4つの地域を選んで植物の分布状況を調査する）

（3）大芝・南原地区の植物分布（4地点で調査する）

A 中の原山林、 B 温泉の北山林、 C 南殿社叢、 D 南原山林

① 草本類

枠内の印は、分布している量を示す。

植 物 名	A 中の原	B温泉北	C南殿林	D南原林	薬草、その他備考
アオツヅラフジ	○	○		○○	むくみの利尿剤、蔓性植物
アカツメクサ				○	帰化植物、花は体質改善になる
アキノキリンソウ	○○	○○		○	風邪、のどのおとし
アシボソ			○○		半日陰に自生
アマドコロ	○			○	滋養・強壮剤
アレチウリ				○	帰化植物で害草
アレチマツヨイグサ	○			○○	帰化植物
イタドリ	○○	○○		○	便秘、山菜
イチヤクソウ	○○○				全草をむくみの利尿、根は菌類と共生
イヌタデ	○○	○		○○	「あかまんま」ままごと遊び用
イノコヅチ	○		○	○	薬用はヒナタイノコヅチ
ウド		○	○		頭痛・めまい・歯痛・山菜
エゾタンポポ	○	○		○	在来種、健胃薬
オオイヌノフグリ	○○	○		○○	早春の花、群生
オオバコ	○○	○		○	風邪薬、咳止め
オシダ	○○		○		下草
オトコエシ			○		白花・男飯の意味
カキドウシ	○		○		幼児のかみ取り、糖尿病 連銭草
カナムグラ				○	蔓植物
カナムグラ				○○	解熱、利尿
キンミズヒキ	○		○	○	胃腸薬、山菜、どろぼう草
クサコアカソ	○			○	繊維植物
クサノオウ	○			○	毒草、皮膚病
ゲンノショウコ	○○				腹痛、下痢止め、野草茶
コウゾリナ	○○	○			山菜
コウヤワラビ			○		半日陰に自生
コゴメグサ					帰化植物
コギボウシュ	○				山菜「コウレン」という
コブナグサ	○		○	○	日陰の下草、群生する
シンガシラ	○○			○○	林床植物

植 物 名	A 中の原	B 温泉北	C 南殿林	D 南原林	薬草ほか ・ 備考
シロツメクサ	〇〇	〇		〇	帰化植物・別名クローバー
スイバ (スカンボ)				〇	葉を生食、葉は酸っぱい、
スギナ・ツクシ	〇	〇		〇〇	利尿、咳止め、解熱
スベリヒユ		〇〇		〇〇	利尿、異状に繁殖する雑草
スミレ		〇			減少している
スズメノカタビラ				〇	イネ科、道ばたに生える
セイタカアワダチソウ		〇			帰化植物、花粉病を起す
セイヨウタンポポ	〇〇	〇		〇〇	帰化植物、健胃薬
センブリ		〇〇			胃腸、苦味が強い
センボンヤリ	〇				春と秋に花が咲く
タケニグサ	〇			〇	毒草、皮膚病に効く
タガネ			〇〇		半日陰植物、下草
タチツボスミレ	〇〇〇	〇			群生する、広範囲に自生、
タネツケバナ	〇			〇	種を蒔く頃花が咲く湿地に生える
タンポポモドキ		〇〇			帰化植物、別名ブタナ
ダイコンソウ	〇			〇	利尿
チゴユリ	〇		〇〇	〇	稚児ユリの意味
チジミザサ	〇		〇〇	〇	半日陰に自生、下草
チドメグサ	〇〇〇				血止め薬
ツクシ・スギナ	〇			〇	咳止め・利尿・山菜
ツボスミレ			〇		湿地に生える
ツユクサ	〇			〇	解熱、下痢止め
ツリガネニンジン	〇				トトキ、去痰
ツルリンドウ	〇〇〇	〇〇〇	〇		秋赤い実が美しい、蔓で這う
ドクダミ			〇〇〇		野草茶・蓄膿・血尿・高血圧予防
ナギナタコウジュ	〇			〇〇	風の鈴干、解熱、利尿
ナツナ・イヌナズナ	〇			〇	目の充血
ナルコユリ	〇			〇	滋養・強壮剤
ヌスビトハギ	〇		〇	〇	どろぼう草の一つ
ノアザミ	〇〇				健胃・利尿・神経痛（根を使う）
ノゲシ	〇				春と秋とある
ノブキ			〇	〇	葉柄にひれがある
ノブドウ				〇〇	関節痛(根)
ハエドクソウ			〇	〇	毒草、ハエとり
ハキダメギク				〇〇〇	帰化植物、害草
ハコベ・ウシハコベ	〇			〇〇	歯ぐきの止血
ヒカゲノカズラ	〇〇	〇〇〇			装飾品として利用

植 物 名	A 中の原	B 温泉北	C 南殿林	D 南原林	薬用 ・ 備 考
ヒメオドリコソウ	○	○○		○○	帰化植物、作物の害草
ヒヨドリバナ	○			○	解熱・糖尿病予防・四葉も同様
フキ・フキノトウ	○	○	○	○	痰きり、山菜
ブタクサ	○				帰化植物、花粉病を起す
ヘクソカズラ	○			○○	しもやけ薬
マムシグサ				○	毒性あり、半日陰に自生
ミズヒキ	○		○	○	「ミズヒキ」に花が似る
ヤブカンゾウ				○	甘菜・強壮・利尿に根を使う
ヤクシソウ	○				黄色の花がこぎやかに咲く
ヤブタデ			○○		半日陰に自生
ヤマゴボウ (洋種)			○		根を利尿
ユウガギク	○			○	野菊、花は白
ヨモギ	○	○	○	○	健胃・貧血・下痢・腰痛・痔、餅草
リンドウ	○			○	胃薬、苦い
ワラビ	○			○	山菜
ワレモコウ	○				下痢止め、止血、減少植物

② 草 本

植 物 名	A 中の原	B 温泉北	C 南殿林	D 南原林	薬草 ・ 備 考
アオダモ	○	○			樹皮下痢解熱・洗眼・痛風
アオハダ	○○			○	枝の内皮は青色実が秋に赤く熟す
アカマツ	○○○○	○	○	○○○	赤松、建築材、松根油をとる、高血圧
アケビ	○	○		○	茎を腎臓炎・尿道炎に、実皮を料理に
イヌツゲ	○		○		常緑樹で庭木、黒い実ができる低木
ウスノキ	○○				低木、実は赤く先が半円くぼむ
ウラジロレンゲ		○			葉の裏が白いオニツツジ
ウリカエデ	○			○	枝がウリの肌に似るカエデ
ウワミスザクラ	○○				花穂を咳止めに穂状の花を乾燥し用
エゴノキ				○	実皮はえごい、材は傘のろくろ材に
カヤノキ			○		実は食べる、寄生虫・夜尿に
カスミザクラ	○○				花は霞のように白、ケヤマザクラ
ガマズミ				○○	低木、実は赤い食べられる
キイチゴ	○			○	黄色の実のつく木いちご
クヌギ	○○				団栗 (どんぐり) 樹液に昆虫が集まる
クリ	○	○		○	材堅く腐りにくい土台・橋・枕木材
クロモジ	○				クスノキ科、香水、楊枝を作る
クワ				○	黒い実は食べる、蚕の食べる
ケンポナシ				○	果実は食べる、利尿。二日酔

植 物 名	A 中の原	B温泉北	C南殿林	D南原林	薬 草 ・ 備 考
コアジサイ	○	○	○	○	林の日陰に生える低木、淡静紫色の花
コガキ			○		小さな黒い柿の実、食べれる
コシアブラ	○○		○	○○	若芽山菜、材から油をとり塗料に
コナラ	○○	○	○	○○	薪炭・シイタケ栽培・長細いどんぐり
コハウチワカエデ	○				小型のハウチワカエデ
コブシ	○			○	鼻炎、早春花は芳香を放つ
サルマメ				○	小低木、赤い実になる
サワフタギ	○		○	○	実が濃い色で美しい、沢を塞ぐの意味
サワラ	○	○	○	○	軟らかも 材、木桶を作る、陰樹
シラカンバ	○			○	民芸品材、炊きつけ、盆の迎え火
ス ギ			○○○		建築・家具・樽・船材、湿地を好む
スイカズラ	○			○	腰痛・痔病、蔓葉を風呂へ入れる
ソヨゴ			○○		雌雄異株、神事に用う、赤い実
タラノキ	○			○○	山菜の王、糖尿病に用いる
ダンコウバイ	○			○	早春に葉より先に黄色の花、ジシヤ
ツ ガ	○				材堅く建築家具、低山自生する
ツ タ				○○	紅葉が美、蔓は吸盤で伸びる
トウヒ (ドイツトウヒ)	○○				材は良質で建築・家具に、菊形状
ニガイチゴ	○			○	実は苦味があるけれど、茗く刺が多
ニシキギ	○			○	紅葉が美しいので錦木という、盆栽用
ニセアカシア				○	帰化植物、異常に繁殖し問題化マメ科
ニワトコ	○			○	小枝は小鳥の止まり木、接骨の冷やし
ヌルデ	○			○	実は染料、お染黒材、紅葉が美しい
ネジキ	○○				低木、幹が振れる、材緻密堅い
ノリウツギ	○			○	和紙の原料、木の内皮が粘る
バイカツツジ	○				日陰に生える、梅花形
ヒノキ	○○○○	○○○	○○○	○○	堅い、建築材、ヒノキオールの気体
フジ	○	○	○	○○	蔓は右巻きでノダフジ（フジ）
ホオノキ	○				咳、胃炎、材は下駄、版木で木目が美
ミズキ	○		○	○	材は水気を多く含む、
ミツハアケビ	○			○	アケビは5葉、ミツハは3葉アケビ
モミ	○		○		家具、パルプ材
ヤマアジサイ	○○	○		○	山地自生のアジサイ、半日陰
ヤマウルシ	○		○	○	かぶれる、日陰に生える、紅葉は美
ヤマガシユウ				○	蔓に鋭い刺あり、サイカチバラ
レンゲツツジ	○			○	別名オニツツジ、毒性がある。

(4) 大芝・南原の植物の考察

A地区の考察

ア ヒノキ林、イ アカマツ林、ウ アカマツとヒノキの混交林と大きく分けて三つのタイプがある。

- ① ヒノキ林のなかでも、ヒノキが密集している林床には僅かなコケ類だけ見られる。ヒノキとアカマツの混交林では、陽光が少し入るので広葉樹の低木が多く成育している。

その樹下には半日陰を好むアマドコロ・ウド・チゴユリ・ツルリンドウ・ヒカゲノカヅラ・マムシグサ・ヤブクデ・タガネソウ・チジミザサなどの草本や木本のクロモジ・コアジサイ・キツタ・ヤマアジサイ・ヤマウルシ・ツタウルシ・ヤマツツジ・バイカツツジ・イヌザンショウ、その他いろいろ見られる。

- ② A地区には林内にウオーキングコースがある。ここは林縁と同じように陽光が差すので、日光を好むオオバコ・タンポポ・オオイヌノフグリ・ゲンノショウコ・コウソリナ・コバギボウシ・タチツボスミレ・ヒメオドリコソウ（帰化植物）・ユウガギク、ノコンギク・チドメグサなどが自生している。



アカマツ林

植—60



ミヤマウグイスカグラ

B地区の考察

樹齢10～40年のヒノキ林の中にアカマツが少数点在している。

林の中は管理が行き届いていて、雑木はカットされ整然としている。

- ① その中で、刈り残されている木本を挙げると、イヌザンショウ（辛味や香りが無い）、紫の実のなるムラサキシキブ、蔓性のヤマガシユウ・ツルツゲ、かぶれるヤマウルシ、紅葉の美しいヌルデ、ヤマツツジ・神事に用いる榊の代用にするソヨゴやコガキ・コナラ・ヒイラギ・ヤマアジサイなどがあり、サワラやヒノキの幼樹も多数見られる。

- ② 草本でとくに特徴のあるものは、半日陰を好むヒカゲノカヅラやツルリンドウが地を這うように多数みられる。胃の薬用になるセンブリも多数生えている（1年生）、チゴユリ、ドクダミ群、ヤブランなどが半日陰に生育している

- ③ 林の前面には、胸高直径30センチぐらいのシダレザクラが2本ある。その周囲は日当たりがよいので日光を好む野草が多く、なかでも帰化植物のタンポポモドキ（別名ブタナ）が多く見られる。

植—61



ヤマアジサイ

植—62



ゲンノショウコ

（半日陰を好む）（腹痛や下痢に効く薬草）

なお、この周辺でセイカアワダチソウを見かけるが花粉公害の帰化植物であり繁殖力が激しいので駆除を要する。西側の道路沿いにコブシの並木があるが注目に値する。

C地区の考察

- ① C地区は大芝原の扇状地の末端に当たるため土壌は湿り気を含んでいる。そのためA B地域に見られなかったスギが、ここには巨木で沢山生育しているのが特徴といえる。

- ③ 貴重な社叢で異なった様相を呈している。スギの巨樹が密集している林床は薄暗く下草は生育していない。

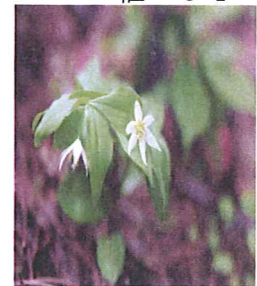
しかし、アカマツが所々に見られコナラもあり、また神社に相応しくソヨゴも多く生えていて、林間から陽光の差す場所にはムラサキシキブ、イヌザンショウ、ヤマツツジ、コガキ・ヌルデなどの低木があり、草本では昔、根を薬用に使用したヨウシュヤマゴボウが名残として生育している。また、チゴユリの群落・ドクダミの群落・ウド・ツルリンドウなどが見られるのも一つの特徴である。

D地区の考察

- ① D地区は南原であるが、山林の周囲は農耕地で、直ぐ南側は小沢川の段丘の林になっている。アカマツの大木が主で南側にはヒノキ・サワラの中高木があり、全体的に余り管理の手が入っていない。従って平坦地ではあるが、ソデ群落、マント群落、山林などの形態が見られる。これは他の地区と異なった特色である。



ノリウツギ



チゴユリ (稚児ユリ)

- ② ソデ群落の植物が畑に接しているので、帰化植物のナギナタコウジュ、ハキダメギク、群落アレチウリ（最近大きく問題化している害草で駆除を要する）・そのほかには、ユウガギク・オヒシバ・メヒシバ・イノコヅチ・ヨモギなどが場所を占有している。



植—6 3



植—6 4

- ③ マント群落 樹齢80年ぐらいのアカマツにツタ・ヘクソカズラ・フジ・カミエビなど蔓性の植物が絡みついている。またガマズミ・エゴノキ・ケンボナシ等をノブドウ・スイカヅラ・アケビ等の蔓性の植物が覆い、マント群落を形成している。

林内はニワトコ・ニガイチゴ・ミズキ・エゴノキ・オオモミジ・コシアブラ・カヤ・シラカバなどの低木や中高木がみられる。密集したヒノキ林にヒノキの幼木の立ち枯れが見られたが日光と土壌の養分の不足が原因であろうか。

A～Dの他に、ヒノキ林にマレットゴルフ場がいくつかある。

(5) まとめ 大芝原山林の今後の利用として考えること

- ① 林の樹木の間伐をすることにより日光がよく差し下草がよく育ち、豊かな植相となる。その結果、林の中の湿度が保たれ、また、ヒノキやマツなどの高木もよく育つことになる。
- ② ヒノキ林は、樹林のなかに落葉広葉樹を交えることが自然林としての林相が成立する。
- ③ 森林創りの体験学習や動植物・薬草を含めて環境学習の場として活用できる。
- ④ この他に、林の中にウォーキングコース、マレットゴルフ場、森林浴など住民の健康促進に利用されている。

木材利用価値も大事であるが、③・④の面の関係も今後の大事な課題になると考える。

山林の縁に生育するマント群落
低木があり、その上に這い上がる
蔓性の野草